

日南町のオーガニック ビレッジの取り組みとは

日南町が取り組むオーガニックビレッジの取り組みは、中山間地域の特徴を生かした「付加価値型農業の推進」です。

反収や生産効率の面から、中山間地域の農業は平地と比べて厳しい状況がある中で、中山間地域にしかできない、中山間地域だからこそできる「有機農業」への挑戦を行うことで、持続可能な産地づくりに結び付けることを目的としています。

課題（デメリット）を 一つ一つクリアしていく

「オーガニック」「有機栽培」を名乗るには有機JAS認証が必要ですが、日南町では、国のみどりの食料システム戦略におけるオーガニックビレッジの取り組みにより、有機JAS認証取得をサポート。オーガニックビレッジ推進員による人的支援、有機JAS認証取得のための費用負担の支援により、認証取得農家の増加を目指しています。

病害虫・雑草対策、収量アップ の取り組み

農機具メーカーとタイアップしたスマート機械の導入により、除草作業の労力を削減し、太陽熱消毒による病害虫、雑草対策を行うことで、初期の雑草対策を実現しました。

また、BLOF理論（※高品質・高栄養価・高収量な農作物の生産を、土づくりに着目して科学的・論理的に生産する理論）の導入により、病害虫に強く、かつ食味・糖度の高い農作物の生産が可能となります。令和6年度からは月1回程度の割合でBLOF理論の研修会も開催しています。



農機具メーカー ヤンマーの協力により、畑作の初期除草を省力化

有機農産物を全国へ



水稻作付においても、農研機構や農業ベンチャー企業と連携した実証を開始しています

昨年5月に発足した官民連携でのプロジェクトチームには、販路、流通、消費といった農業生産のみにとどまらないサプライチェーン（流通網）での有機農業推進体制を整備しています。これにより「栽培すれば売れる！」体制を構築しました。また、学校給食にも有機農産物を提供する仕組み作りも検討しています。



学校給食にも有機農産物を積極的に取り入れた「つながる給食」を目指します

有機農業は手間がかかる、収量が下がる、といった有機農業の課題を解決することで、地域全体での有機農業の産地づくりを実践していきます。

日南町の農業の選択肢の一つとして「有機」を位置づけ、

町内の農業者のみならず、全国から有機農業を実践したい移住者を呼び込み、持続可能な農業の在り方、農産物をつくり続けられる環境を整えていきます。

こどもたちの「食育・食農」教育の推進、学校給食の有機農作物の普及を図り、

地域と農業者・消費者がそれぞれ「つながる」食の産地づくりの実践を図っていきます。

